いわて・みやぎ・ふくしま 3 県合同シンポジウム ↓

災害時の 子どもの心のケア

◇東日本大震災で振り返る 緊急時の対応からその後の支援~

2025. 11.6

13:00 ~ 16:30 予定(開場 12:30) 参加無料

定員 170 名(会場参加:70 名程度/オンライン:100 名程度)

実施方法 会場参加とオンラインのハイブリット開催

会場:双葉町産業交流センター大会議室(〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 1-1)

開催概要

東日本大震災から 14 年が経過し、被災地では復旧・復興が進む一方、当時子どもだった世代が 親となり、今もなお震災の心理的影響を抱えながら子育てに向き合っています。地域の居場所や 子ども支援の形が変化するなか、新たな課題も浮かび上がっています。

本シンポジウムでは、岩手・宮城・福島の被災地で展開してきた支援について専門家や支援団体 とともに共有し、世代を越えて続く心理的影響への理解を深めるとともに、地域一体となった支 援のあり方や公的支援体制の役割を再確認し、これからの課題への対応策をともに探ります。震 災から14年の今だからこそ、次の世代へつなぐ支援のあり方を考える場に、ぜひご参加ください。

参加対象

子ども・若者支援に携わる支援団体、企業、自治体(行政)や社会福祉協議会、地域コミュニティの方々 今後も東日本で活動する団体や、大規模災害が想定される地域で子どもの心のケアなどに取り組んでいる 方々、教育関係者の方々、地域にお住まいの方、一般の方のご参加もお待ちしております。

プログラム

- ●開会挨拶
- ●基調講演:東日本大震災 14 年の軌跡と現状・今後も被災地に残る課題(子どもの心のケア)
- ●子どもの心のケアに関する各県の取り組み紹介(岩手・宮城・福島)
- ●パネルディスカッション:被災地の子どもの心のケアの今後に向けた意見交換
- ●質疑・まとめ

※プログラムは変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

詳しくは裏面へ

本事業は令和7年度復興庁被災者支援コーディネート事業により実施しております。

【お問合せ】一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター (担当:太田・加藤・梅森)

【電話番号】022-797-6708【FAX】022-797-6788

【メールアドレス】info@michinoku-design.org

※当日は電話が転送対応となるため、ご返答までにお時間をいただく場合がございます。あらかじ めご了承ください。

【主催】特定非営利活動法人いわて連携復興センター

-般社団法人みやぎ連携復興センター -般社団法人ふくしま連携復興センター -般社団法人ふくしま連携復興センター -般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター

【後援】岩手県、宮城県、福島県



宮城県 (20分)



清水冬樹氏

東北福祉大学総合福祉学部社 会福祉学科准教授 一般社団法人東日本大震災子

ども・若者支援センター理事

PROFILE

東洋大学大学院修士課程終了後、都内の児 童養護施設に勤務。その後、北海道の保育 者養成校で研究と教育に従事し 2020 年度 より現職。専門は社会福祉学、こども福祉。 博士(社会福祉学)。小児期逆境体験 (ACEs) を経験したこども達が、自分ごと として自分の人生を歩むことができるため に、地域・コミュニティによる支援のあり 方をこどもの権利を基盤として研究。

福島県 (20分)



前田正治氏

-般社団法人福島県精神保健 福祉協会ふくしま心のケアセ ンター所長

PROFILE

1984年、久留米大学医学部卒業。2013年よ り福島県立医科大学医学部災害こころの医学 講座・主任教授。災害精神医学、精神医学的 リハビリテーションを専門とし、航空機墜落 事故や潜水艦沈没事故などで被災者の精神保 健調査・支援の責任者を務めた。2010年か ら3年間、日本トラウマティック・ストレス 学会会長を務め、現在は政府の犯罪被害者等 施策推進会議専門委員、警察庁・消防庁の惨 事ストレス対策アドバイザーを務める。

岩手県 (20分)



八木淳子氏

岩手医科大学医学部神経精神 科学講座教授/岩手医科大学 附属病院児童精神科診療科部 長/岩手医科大学 いわてこど もケアセンター 副センター長

ROFILE

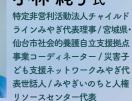
岩手医科大学 医学部神経精神科学講座教 授・附属病院児童精神科診療科部長・いわ てこどもケアセンター副センター長。東日 本大震災以前から岩手医科大学で児童精神 医学・医療を実践しており、震災後は医療、 教育、行政と連携しながら、被災地での子 どものこころのケア・トラウマ治療を続け ている。また、トラウマフォーカスト認知 行動療法(TF-CBT)アジア地域認定トレー ナーとして、治療法の普及にも努めている。

取り組み紹介

14:10~15:10 子どもの心のケアに関する各県の取り組み紹介



小林 純子氏



米国デラウェア大学の NPO 研修参加を機に 団体を設立、5団体を運営しつつ、チャイル ドラインの運営、子育て支援施設や児童館の 指定管理、東日本大震災後の支援活動、宮城 県・仙台市社会的養護関係委託事業などを行 ってきた。宮城県・仙台市の子ども・子育て 会議委員・副委員長、宮城県青少年問題協議 会委員、他委員等を歴任、子ども・若者の人 権問題や支援についての提言、実践を行って

福島県 (20分)



三浦恵美里氏

特定非営利活動法人ビーンズ ふくしま ふくしま母子サポー トネット所属保育士

PROFILE

東日本大震災後、横手市へ母子避難。避難 時は県の避難者支援相談員として活動。帰 還後、県内外避難者支援コーディネーター として福島県内12か所にて、定期的に福 島で子育てをする母親のためのサロン「ま まカフェ」を開催。今年で13年目を迎える。 また子育て世代を中心とした県外避難者家 庭もサポートしている。

岩手県 (20分)



南 景元氏

大槌町教育委員会

スクールソーシャルワーカー

PROFILE

韓国出身。2004年、来日。2011年、ボラ ンティアで訪れた岩手県大槌町で「校庭も 教科書もなくなった。だからこそ『子ども と教育』という原点に戻りたい」といった 先生たちと、その思いに応えようとする子 どもたちの姿に出会い、大槌町スクールソ ーシャルワーカーとして勤務。現在は、町 が推進する「誰一人取り残さない学び『け やき共育』」を中心に公教育の可能性と希望 を夢見ている。

パネルディスカッション

15:15~16:15 被災地の子どもの心のケアの今後に向けた意見交換

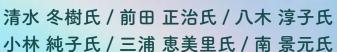
●ファシリテータ

石塚 直樹

一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター理事

災害復興を契機とした地域づくりや当事者による省 察・対話の場づくりに、コーディネートと研究の両面 から取り組む。中越防災安全推進機構研究員、兵庫県 立大学大学院減災復興政策研究科客員研究員などを兼 務。主な共著書に『震災復興が語る農山村再生 地域 づくりの本質』(コモンズ,2014)など。

●パネリスト





おります。

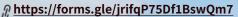
質疑・応答

16:20 ~ 16:30(予定)

参加いただいた皆様から質問や意見交換をおこないます。

■お申込み 以下のいずれかの方法で事前にお申込みください。※申込締め切り/11月4日(火)

フォーム



※リンク又は二次元 コードよりアクセス いただき必要事項を 記入の上送信してく ださい。

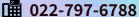


info@michinoku-design.org

次の①~⑥を本文にご記入の上、上記メールアドレス 宛に送付ください。

- ①参加される方の氏名
- ②参加される人数
- ③所属
- ④連絡先 (メールアドレス・電話番号)
- ⑤会場参加・オンライン参加のご希望
- ⑥当シンポジウムへ期待する事など

FAX



※別紙の FAX 用紙より、必要事項をご記入の上 お申し込みください。

シンポジウムの情報はコチラへも掲載して



送信日:令和7年 月 日

令和7年度3県合同シンポジウムFAX申込用紙

【下記ご記入の上、 **022 - 797 - 6788** まで FAX をお願い申し上げます。】

お名前		
所属組織		
メールアドレス		
電話番号		
参加形態	□会場参加(双葉町産業交流センター大会議室) □オンライン	
ご参加の人数について 教えてください。	□1名で参加	
	□複数名で参加 ※複数名でご参加の方はご参加の方のお名前・所属組織のご記入を下記へお願いいたします。	
お名前		所属組織
当シンポジウムに期待する事		
当シンポジウムはどちらでお知りになりましたか。(下記よりご選択ください。)		
□いわて連携復興センターホームページ □いわて連携復興センター告知メール		
□みやぎ連携復興センターホームページ □みやぎ連携復興センター告知メール		
□ふくしま連携復興センターホームページ □ふくしま連携復興センター告知メール		
□みちのく復興・地域デザインセンターホームページ □みちのく復興・地域デザインセンター告知メール		
□関係者からの紹介		
□その他		